

## 簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

|       |           |
|-------|-----------|
| 氏名    | 西木 禎一     |
| 所属機関名 | 獣医学部 獣医学科 |
| 職位    | 教授        |
| 在籍年   | 7         |

## 教育の責任

所属している獣医学科の専門教育において、毒性学分野の教育の責任を担っている。「獣医毒性学」および「獣医毒性学実習」は代表教員として担当し、「総合獣医学演習Ⅰ」および「総合獣医学演習Ⅱ」は一部の授業回を分担している。

## 教育の理念

獣医学教育においては、専門知識の習得に加え、その背景にある原理や概念を理解し、科学的根拠に基づいて自ら考え判断できる能力を身につけることを重視する。そのため、知識の暗記にとどまらず、理解に基づく思考力や問題解決能力の育成を教育の柱とする。また、獣医師は臨床や公衆衛生など多様な場面で社会と関わる専門職であることから、専門的内容を正確かつ分かりやすく説明する能力と、社会的責任を自覚した行動を取る姿勢の育成も重要である。さらに、獣医学の知識や技術は卒業後も更新され続けることから、学生が主体的に学び続けることのできる基盤を学生時代に築くことを教育の目標とする。以上を教育の基本理念としている。

## 教育の方法・方針

## 【教育の方針】

- 学生が知識を体系的に整理し、新しい状況や未知の課題にも応用できる力を身につけられるよう、専門知識の暗記に偏らず、原理や概念の理解を重視する。
- 将来、獣医師として多様な関係者に対して説明責任を果たすことができるよう、専門的内容を平易な言葉で分かりやすく説明する能力を育成する。
- 将来、獣医事において直面する課題を論理的に分析し、適切な解決策を考える力を身につけられるよう、科学的思考に基づく問題解決能力を育成する。
- 獣医師が公衆衛生や社会の安全・安心と密接に関わる専門職であることを理解できるよう、獣医学と社会との関わりを意識した理解を促す。
- 学生が自身の理解度や到達度を日本の獣医学教育の基準に照らして把握し、主体的に学習を改善できるよう、コアカリキュラムに対応して整備した評価基準に基づき、学修成果を判定する。
- 専門職として自立して学び続けられるよう、探究心を涵養する。
- 学生が学習に集中できる環境を整えるとともに、事情により登校できない場合でも学習機会が確保されるよう支援する。
- 学習内容の要点を把握しやすくするため、説明の分かりやすさと理解の補助を意識した教材設計を行う。

## 【教育の方法】

#### (授業運営)

- 大人数講義では原則として指定座席制を導入し、授業中の私語を抑制している。
- 授業は同時配信を行い、登校できない学生の自宅での受講を支援している。

#### (教材・授業構成)

- 授業全体の見通しを示すため、授業のアウトラインを配布している。
- スライドには、関連する他科目を含め教科書の参照ページを明示し、学生が知識を体系的に整理できるよう配慮している。
- 獣医学と社会との関わりを理解させるため、ニュース報道や省庁・自治体が発信する情報を授業内で積極的に紹介している。

#### (学習活動)

- 各回の授業の到達目標に対応した論述練習問題(「～について説明しなさい」形式)を提示し、希望者には添削指導を行うことで、専門的内容を自分の言葉で説明する能力の育成を図っている。
- 各単元の終了時に、その単元で学んだ知識に関する過去の獣医師国家試験問題を用いた小テストを実施し、解答後に解説を行うことで、理解度の確認と知識の定着を促している。
- 毎授業終了後に自作の5肢選択問題をe-learningで公開し、2週間以内に取り組んだ学生には詳しい解説を返却することで、授業外学習を促進している。

#### (評価)

- 期末試験では論述問題も出題し、基本的重要事項について説明できる能力を評価している。

#### (学習支援・発展的学習)

- 単位取得後も、卒業生を含め希望者には「NEWSの中の毒性物質」というタイトルで、ニュース報道に独自の解説を付してメールで配信し、継続的な学びを支援している。
- 獣医師国家試験の準備を支援するため、担当分野および関連分野の過去問題を解説付きでe-learningに公開するとともに、冊子形態を希望する学生には実費で配布する。

### 教育の成果

授業アンケートでは、スライドや図表の見やすさ、説明の分かりやすさに関する肯定的な評価が多く寄せられ、教科書だけでは理解が難しい内容についても授業を通して理解が深まったとの意見も見られる。また、日常生活や過去の事件・事故と関連づけた説明や、既習科目との関連を示した解説が、内容への関心や理解の深化に寄与していることが示唆された。さらに、授業の同時配信や論述課題へのフィードバックが、学習継続や学習意欲の向上を支援しているとの意見も確認された。以上の結果から、本教育方針およびそれに基づく教育方法は、学生の理解促進と学習意欲の向上に一定の教育効果を有していると考えられる。

### 今後の目標

本学獣医学科生の学力や学習意欲の多様性に対応し、成績不振学生の学習支援を強化するとともに、理解の進んだ学生に対しても主体的学習を促す教育環境の拡充を目指す。

### 根拠資料

- 2023-2025年度「獣医毒性学」のシラバス、配布資料、および授業評価アンケート
- e-learningシステム「CBT Medical」において公開中の演習問題セット
- 獣医師国家試験問題解説 2021~25 毒性学プラス (ISBN 978-4-8419-4118-0)